



薩摩川内市立水引中学校「学校だより」

みずひき

〒899-1921 鹿児島県薩摩川内市水引町7602番地1

TEL: 0996-26-2104 FAX: 0996-26-3908

3月号

令和6年3月15日発行



水引中ホームページ・ブログのQRコード↑

新しい旅立ちに向けて

校長 日高 正人

3年生 21人が、12日(火)に多くの来賓の皆様と保護者の皆様に祝福されながら無事に卒業式を終え、水引中学校からそれぞれの思いを胸に羽ばたいていきました。これもPTAや地域の方々の温かな御支援・御協力によるものと心から御礼申し上げます。引き続き、卒業した生徒たちへの御声援、よろしくお願いいたします。

さて、小学校から共に学び、遊んできた仲間だけの世界から、育った環境の異なる同級生と様々なことを学んでいくことになる生徒たちにとって、社会性の発達の上で大きな転機を迎えることになります。人は、乳幼児期から「一人遊び」、「接近」、他者に興味を持つ「並行」、許可を得て他者のものを使う「共有」、共通の目標に対して協力する「協調関係」、順番を守る「役割交代」と発達していきます。小学生段階になると、「ルール理解」、他者に対して応答がしっかりできる「相互交渉」の段階へ進み、一対一の関係は、一対多数、多数対多数の関係へと広がります。小学校中学年から高学年になると遊びを中心に、8人程度の閉鎖性の高い小集団をつくり、これは、自己の内面に関心が向かいやすく、対人関係も徒党を組んで大人数で活動する「ギャンググループ」といわれます。中学生になると、より少人数の似た者同士が集まります。これは、まだお互いの違いを認め合うような成熟した段階にいたっていないため、メンバーの類似性が重視される「チャムグループ」といわれます。「一人だけ違う言動をとると、仲間集団からはじかれてしまうのでないか」というプレッシャーが常に付きまとい、コミュニケーションを円滑にとることが容易なものではないので、不登校の要因になることもしばしばです。高等学校の時期に入ると、チャムグループでの経験をもとに、友人関係は成熟を見せ、それぞれの個性や違いを互いが認め、尊重できるようになる「ピアグループ」を形成していきます。

このように順調に育つとよいのですが、最近はこのチャムグループから次のピアグループへの移行がなかなか進まないことが増えています。違いがあるのに認めない状況になり、お互い辛くなることもできます。これは、ギャンググループをしっかりと体験する子供たちが少なくなっているため、グループの中でも自分らしくいることや、メンバーとして振る舞うときのルールを十分に身に着けず、いきなりチャムグループという密着した関係性になる子供たちが増えていることが原因です。不安から仲間意識を強化するために、「外に敵を作ることによって仲間意識を強める」という行動が生まれやすくなってきます。チャムグループでは、同一性が、行動でも考え方も求められるため、「私達とは一緒ではない子」に対して、排他的になります。しかし、最近、SNSにより排他性に加え攻撃性を加速させています。お互いの顔を見ずに行われるため、感情のすれ違いがたくさん起こるようになります。短い文章でその時の気分だけで、やりとりをするため、相手への配慮が欠けていきます。軽い気持ちでの「いじり」が「いじめ」になることも多く、そのため「自分の意見」「本音」を言わなくなってしまう、表面的には「違いはないふり」をしながら過ごすことになります。無理をして、すれ違わないようにしているので、同じグループでも考え方の違いを認めあう「ピアグループ」への移行がなかなか進まなくなっています。研究によると大学や職場、ママ友仲間でも、チャムグループがよく見られるという報告もあります。PTAなどSNSによる連絡網の中でのやり取りが増えています。私の経験において、保護者間や教員とのトラブルの中には、相手と直接的に会う機会の少ない相手とのトラブルが多かったことから、この研究に大いにうなずくところでした。このように、子供たちが私たち大人と同じ轍(てつ)を踏まないように、相手が気になるときは、直接相手と会って、自分の性格や行動の傾向を客観的に把握した上で、社会と上手に関わるためのノウハウを理解しやすい形で伝えてあげることの必要を感じています。

「3年生を送る会」と弁当の日

3月9日(土)は、「3年生を送る会」と「弁当の日」でした。「3年生を送る会」では、縦割りのチーム編成でバスケットボールを行いました。ガッツあふれるプレーが続出しました。その後、自分で作った弁当をおいしくいただきました。



学校関係者評価

学校運営協議会委員の皆様、学校の教育活動について4段階で評価していただきました。おおむね良い評価をいただいたのではないかと思います。この評価をもとに、更により教育ができるよう全職員で取り組んでまいります。

番号	事項	評価項目	学校関係者評価委員による評価		
			評定(数値平均)		
段階	人数	平均			
1	(1)	校長の学校経営方針等が保護者や地域に伝わっている。	A	7	3.7
			B	3	
			C	0	
			D	0	
2	(1)	望ましい子供の姿(知・徳・体)に向かって数値的目標を設定し改善に向けて努力している。	A	6	3.6
			B	4	
			C	0	
			D	0	
3	(2)	子供たちは、「学校が楽しい」と感じ、生き生きと学校生活を送っている。	A	5	3.5
			B	5	
			C	0	
			D	0	
4	(2)	いじめや不登校など生徒指導上の課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	A	6	3.6
			B	4	
			C	0	
			D	0	
5	(3)	子供たちの安全(登下校時、自然災害時)について細心の注意を払っている。	A	7	3.7
			B	3	
			C	0	
			D	0	
6	(4)	教職員は、子供と望ましい関係を築いており、保護者や地域との交流が図られている。	A	5	3.5
			B	5	
			C	0	
			D	0	
7	(5)	学校は常に整理整頓、清掃され、花や緑に囲まれている。	A	7	3.7
			B	3	
			C	0	
			D	0	
8	(5)	学校の施設・設備は定期的に点検され、安全な状態が保たれている。	A	6	3.6
			B	4	
			C	0	
			D	0	
9	(7)	子供たちの学力や体力の実態が保護者や地域によく知らされている。	A	5	3.4
			B	3	
			C	1	
			D	0	

番号	事項	評価項目	学校関係者評価委員による評価		
			評定(数値平均)		
段階	人数	平均			
10	(7)	保護者や地域は学校の教育活動に対して協力・支援を行っている。	A	4	3.3
			B	5	
			C	1	
			D	0	
11	(6)	小中一貫教育は、小中間の交流活動等が効果的に行われ、成果が現れている。	A	4	3.4
			B	6	
			C	0	
			D	0	
12	(6)	薩摩川内元気塾は、子供たちに夢や元気を与えている。	A	7	3.6
			B	2	
			C	1	
			D	0	
13	(6)	英語の授業では、子供も教師も笑顔でコミュニケーション活動を行い、英語力が身に付いている。	A	5	3.4
			B	4	
			C	1	
			D	0	
14	(2)	子供たちは、学校や地域で進んで挨拶をしている。	A	6	4
			B	5	
			C	0	
			D	0	
15	(8)	子供たちは地域の中で社会性のある行動ができたか。	A	4	3.4
			B	6	
			C	0	
			D	0	

〈主なご意見〉

- ・ 毎月の学校だより、校長の生徒への思いや学校の活動の様子がよく分かる。
- ・ 学校で会う子供たちが楽しそうです。
- ・ 文化祭や体育祭など中学生が小学生をフォローする姿がよかった。
- ・ 一人一人の自己有用感を高める努力がなされることを今後も強く望む。
- ・ 運動会のバルーンゲートなどの様子から協力的だと分かる。

第77回 卒業式

3月12日(火)は、第77回卒業式でした。今まで水引中学校を支え、引っ張ってくれた21人の卒業生の皆さんが、これからもそれぞれの道で活躍してくれることを期待しています。



日	曜	4月の行事予定
8	月	新任式 始業式 入学式 ※新2・3年生は弁当持参 PTA 交通安全指導(～15日)
9	火	生徒会入会式・学習オリエンテーション
10	水	身体計測 全国学力・学習状況調査(質問 3年)
11	木	知能検査(1・3年) 標準学力検査(～12日) 耳鼻科検診
12	金	PTA 新旧役員会
18	木	全国学力・学習状況調査(3年 国・数) 家庭訪問(～26日)
19	金	PTA 総会・学級PTA・専門部会・部活動保護者会